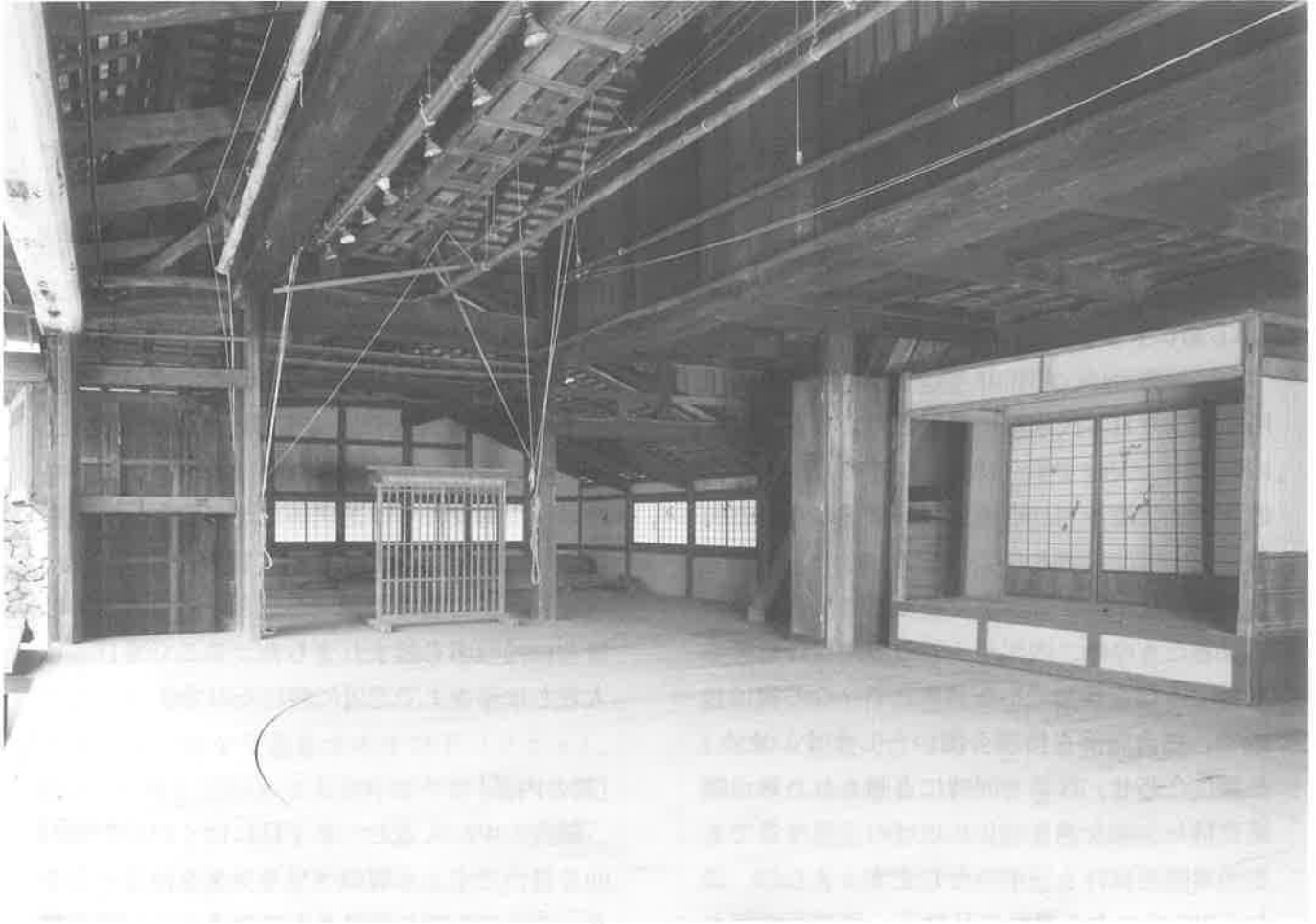


日本民家園だより

第54号

平成15年10月1日

編集・発行 川崎市立日本民家園



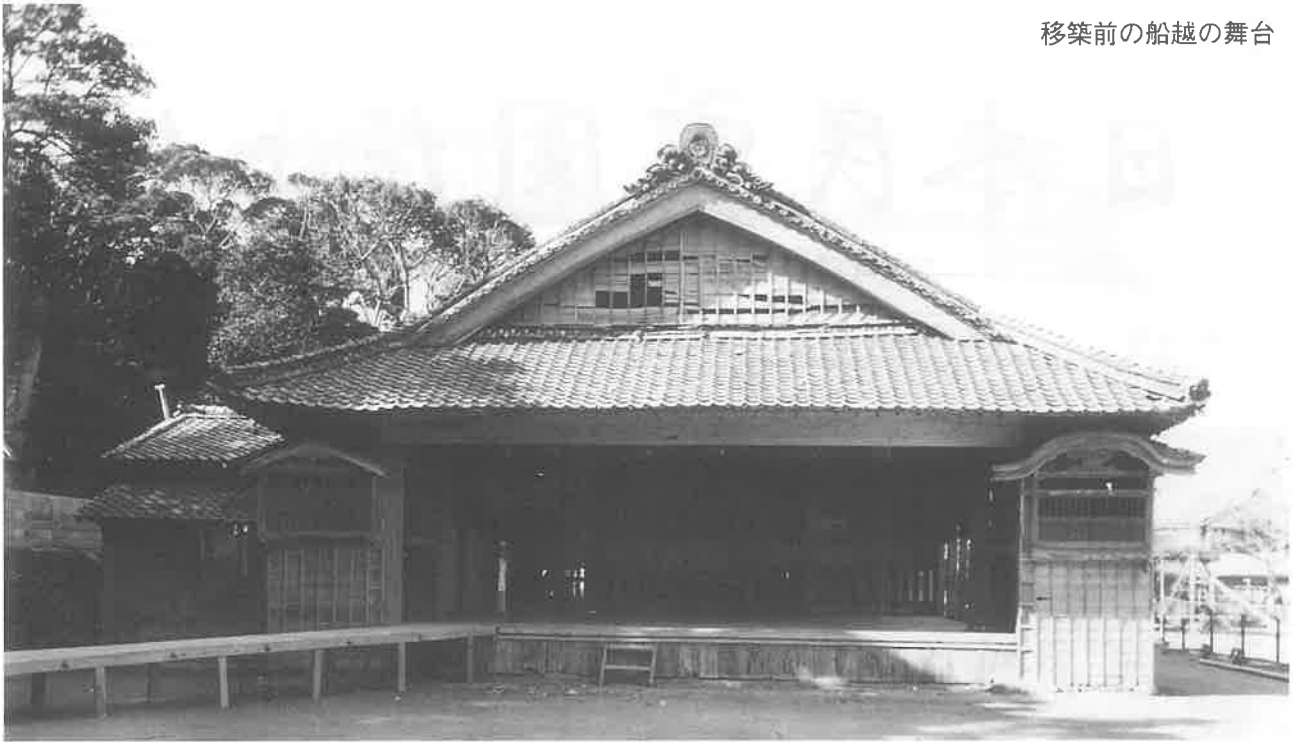
特集 船越の舞台

船越の舞台 内部特別公開

企画展示「芝居の立つ町
—船越の舞台のふるさと—」開催

船越の舞台民俗芸能公演
「栗木粉屋踊り」「有馬大正踊り」

日本民家園收藏品目録1『船越の舞台』刊行



【はじめに】

船越の舞台は、昭和48年に三重県志摩郡大王町船越より日本民家園に移築されました。江戸時代の末、安政4年（1857）に建てられた本格的な歌舞伎舞台で、昭和51年には国の重要有形民俗文化財に指定されています。

しかしながら、これまで芸能公演で親しまれてはきたものの、内部が一般の方の目に触れる機会はありませんでした。そこで、この秋はじめて、舞台内部を特別公開いたします。また、公開に合わせ、移築と同時に寄贈された舞台関連資料と、海女漁をはじめ地域の主要産業である漁業関連資料も展示いたします。さらに、これら300点に上る資料の目録と、移築当時行われた船越地区の民俗調査の記録も合わせて刊行いたします。

【芝居興行】

船越の舞台はかつて、村の鎮守、船越神社の境内にあり、毎年旧6月13日から15日の祭礼に芝居が奉納されていました。村人が演ずる地芝居は明治20年ごろ絶えましたが、役者の一座を招く請芝居は昭和38年まで続きました。市川荒太郎や林又一郎、中村富十郎など、著名な歌舞伎俳優も多数舞台に立っています。

請芝居でも準備の中心は村人でした。舞台に泊まりこみで小道具をそろえ、書割を描いたのです。経費も村人によってまかなわれました。各戸から寄付金が寄せられたほか、ハナカツキといって海女たちは芝居前に1日費やして漁を行ない、その日の収穫をすべて寄付していました。

当日は舞台前にムシロが敷き詰められ、その後ろに栈敷席も組まれました。ここで連日、村人たちは深夜まで芝居に興じたのです。

【舞台内部】

舞台の中に入ると、まず目に付くのが中央の回り舞台です。木製のベアリングを使用するなど、改築のたびに改良されてきました。回り舞台の縁には、舞台下から登場するためのセリア



演芸会風景（昭和45年）

ゲもあったと伝えられています。

上には幕を吊る棧が設けられています。二重に幕を吊り、前の幕を落として場面を急転換させる「落とし幕」という手法もありました。この棧のあいだに設けられているのが、わたりの棚と葡萄棚です。これは劇中、雪などを降らすときに使用されました。

左右の張り出し部分は出語りといえます。向って右、上手側は上段が太夫座、下段は囃し方です。左、下手側は上段が寄付金を扱う花座、下段はシテザと呼ばれる小道具部屋になっています。

左の奥はコモリデンという楽屋です。ここで下手の道具立てを行なったほか、興行の準備中は村人が寝泊まりしました。

楽屋はこのほか、舞台裏と中2階にもありました。舞台裏の楽屋には現在、安政の建築時や大正の改築時の銘板、歌舞伎役者の名が記された興行記念の掲額などが掲げられています。

【船越の漁業】

太平洋と英虞湾に挟まれた船越では、古くからさまざまな漁が行なわれてきました。中でも特徴的なのが海女漁です。海女のことを船越ではイソド（磯人）と呼びました。舟で沖に出て夫婦一組で行なう者をオオイソド（フナド）、磯伝いに歩いていき1人で行なう者をコイソド（カチド）と言います。アワビ、サザエのほか、ワカメやテングサなども採集しました。こうした漁には、ヒトツメガネ（水中眼鏡）、ハイカラ（潜水用の分銅）、イキヅナ（命綱）、オオビナ（命綱を結ぶ腰縄）、デンデコ（命綱を引き上げるための滑車）など、特徴ある漁具が使用されます。

船越の漁業でもう1つ特徴的なのが、ジゲアミ（地下網）という共有の網で行なう漁が盛んだったことです。ボラ、サイラ（サンマ）、コノシロなどさまざまな漁がありましたが、特にボラ漁は盛んでした。群れが見つかり子ども学校をほうり出して駆けつけ、水揚げがすむと、漁に出ていない者にも1人1本ずつ配られ

海から上がるオオイソド（昭和46年）



たそうです。

このボラ漁は昭和20年代になくなりましたが、海女漁は現在も盛んに行なわれています。

【おわりに】

舞台が移築されたあと、船越では別の場所に公民館が建てられました。この公民館には野外にも舞台が設けられ、幕の中央には「船越座」の文字も記されています。ここで今も、祭の前夜に演芸会が行なわれます。幕の準備を仕切るのは海女組合で、そのため今も、舞台前の席は海女の人々が座ることになっています。広場にはかつてと同じように棧敷席と一般席が設けられ、町の人々はここで夜遅くまで歌や踊りを楽しんでいます。

祭と時期は異なりますが、地元の人による芝居も復活しました。この漁村に培われた伝統は、いまでも形を変えて息づいているのです。

特別公開は、11月8日から12月23日までの土日祭日に行ないます（10時～15時 来年3月に第2期を予定）。また、企画展示「芝居の立つ町 一船越の舞台のふるさと一」は11月1日より来年4月4日まで開催いたします。ぜひこの機会に、船越という小さな漁村が守り育てた貴重な文化財をご覧ください。

第22回 日本民家園まつり

平成15年 秋の催物案内

10月・11月は「日本民家園まつり」です。

11月3日は無料開園日となります。

お茶席の会

10月5日(日)

古民家を鑑賞しながら抹茶をお楽しみください。

11:00～ 佐々木家にて

先着 100名

一服 300円(和菓子付)(入園料別)

協力 所社中

船越の舞台・民俗芸能公演

11月3日(月・祝)

「栗木粉屋踊り」「有馬大正踊り」

13:00～14:00

船越の舞台にて

料金 無料

当日参加自由



邦楽の会

10月13日(月・祝)

琴と尺八の音色をお楽しみください。

11:00～、12:00～、13:00～、14:00～、

15:00～(各30分) 作田家にて

協力 川崎邦楽友の会

むかし体験

11月3日(月・祝)

わら民具着用や糸つむぎと子ども向け竹馬などのコーナーです。

11:00～15:00 太田家・広瀬家・山田家

料金 無料

当日参加自由

協力 民具製作技術保存会

※天候等で変更になることがあります。



実演「大工仕事」と 体験「こども大工入門」

10月19日(日)

・実演「大工仕事」

昔の大工道具チョーナ削りなどの実演が見学できます。

・体験「こども大工入門」

ノコギリやカンナなど大工道具を使う子ども向けの体験と工作教室です。

11:00～15:00 作田家にて

料金 無料(入園料別)

当日参加自由

協力 神奈川県土建川崎多摩支部



お茶席の会

11月9日(日)

古民家を鑑賞しながら抹茶をお楽しみください。

11:00～ 佐々木家にて

先着 100名

一服 300円(和菓子付)
(入園料別)

協力 内田社中

県立川崎北高等学校茶道部



夜の古民家で聞く昔話

11月15日(土) ①17:00～17:40 ②18:20～19:00 作田家にて

要電話予約 (10/26(日)9:00から受付・044-922-2181)

定員 各30人

料金 300円

協力 ききみみずきん

